

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

|            |   |
|------------|---|
| Title      | 生命の発露としてのイメージーション、その体感を語る：雪になる、胎児になる  |
| Author(s)  | 葛西, 琢也  |
| Citation   | 児童の言語生態研究, 17 : 64 - 75   |
| Issue Date | 2009-07-10  |
| DOI        |   |
| Self DOI   |   |
| URL        | <a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045208">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045208</a> |
| Right      |   |
| Relation   |   |



# 国語の授業はこうする

6年生・感情

## 生命の発露としての イマジネーション、その体感を語る

—雪になる、胎児になる—

葛西 琢也

### はじめに

ビルやタワーに照明を当て夜空に浮かび上がらせるライトアップが流行りのようです。闇の中に浮かび上がる白壁の天守閣、あるいは朱塗りの五重塔に代表される神社や寺の建物、さらに自然の景観である滝、満開の桜、秋の紅葉、といくらでも挙げる事が出来ます。本来、日が沈めば闇の世界に沈んでいるはずのものが、日の光の世界から一転闇に浮かび、まさに幽玄の世界に誘われます。私たちの、こうしてライトアップを求める心性は、洞窟の中で焚く火を見つめていた古代の人々の心に、あるいは母親の胎内にまで遡り得る心性と考える人がいても不思議ではあり

ません。それはまた、闇夜に虹を見たとする心性と同じものではないかと思われれます。夜の虹とは現実空間のことではありません。夢の世界、イメージ世界のことです。現代技術をもちいたライトアップでなくとも、昔から薪能のような仕掛けがありました。そして、篝火のもと幽玄の世界へと誘われる感性は大人だけのものではないはずです。夏の夜の火花も、闇を飛ぶ蛍を愛でてきたのも、闇と光が醸し出す時空に誘引されてのことと考えられます。

この授業では闇こそが生命力発動の時空、私たちのイメージを誘発する強力な磁場をもった空間と考えています。闇は夢のひらく空間です。夢が開く、言い方を変えれば、夢の持続とその空間の限定として子どもたちのイメージの運動を見ようとする授業でした。子

どもたちに夢を見てもらうといつて眠ってしまつては困ります。イメージ運動、つまりイマジネーション、その体感を語ってもらうために、雪になって闇の空間を降りて行くという設定にしました。

### 1 闇の世界へ

初めにイメージの世界、想像の世界を語ってもらう授業であることの確認からは入りません。この授業の前提条件の設定が必要ですが、授業の中では想像の世界という言い方をしています。期待しているのは自律的運動、イメージ運動です。この点で、想像の世界を語るといつてもいわゆるお話作りとは異なりま

す。言い換えれば、経験的に獲得していく力ではなく、経験に先立つ先験的な力ですから身を任すことが必要です。そのイメージ運動誘発のために「闇」の世界を設定することとします。闇に装置としての働きを期待できるからです。また、目に何か見えている間は、現実の世界にとどまっていることになりませんから、何も見えない世界から始めなければなりません。

T1 今日はいつもの勉強とはちよつとちがう勉強です。思いついたこと、ひらめいたこと、思い浮かんだことなど何でも言つてください。

今ここにいる私たち、みんなも、周りの先生方も、現実の世界だよ。きよるきよる周りの見てください。今、みんなの目に映っているのは現実。これが現実の世界だよ。現実の世界の裏側にあるのって、何だろう。

(授業者T2は、T1の言葉にあわせ、回転式移動黒板の表側に「現実の世界」と板書していた。後にこの裏側を利用することになる。)

中 異世界。

隆司 夢。

信 自分の思った世界。

雄平 空想の世界。

由加里 想像の世界。

百合子 現実じゃない世界。

T1 ちよつと待つてね。……これが現実だよ。間違つても消せないという。残つてしまふよね。(板書のこと)

これが夢の世界だつたら、しゅつと消えるんだよ。

では、べつの言葉を思い出せた人はいる。

神山 過去の世界。

南田 天国。

島津 未来。

T1 「未来」けつこういますね。まだありませんか。

百合子 天国つて言つたから、あの世。

T1 今日思ったこと何でもだから、正解とか不正解とかないから、自分が思ったことが言えるつてことが、まず大事なのね。他に遠慮している人いない？あとから言つておけば良かったつてことないように。

谷川 あり得ない世界。

子どもたちには、とまどいや、発言を躊躇したり気後れするようすはまったく見られません。「現実の世界」の裏側の世界をつぎつぎと挙げていきました。ここで、列挙された

世界を子どもたちが「想像の世界」としてまとめると、先の「現実世界」と書かれた回転式黒板をぐるつと回転させ、空白だった裏側に「想像の世界」と板書しました。この授業の前提条件の確認です。想像の世界とは心に浮かんだ世界であること、今日はその心に浮かんだことを何でも語る授業であることをもう一度たしかめて次に進みました。もう一つの前提条件の確認が必要になっています。子どもたちの闇のイメージを喚起し、その広がりと考える範囲を整えるためです。



写真1 現実世界の裏側

T1 想像の世界の次に、みんなに思いついてほしいこと。：「やみ」。「やみ」。

「闇」と言われてすぐに思い浮かぶこと。：吉田君。

吉田 暗い感じ。

T1 暗い感じ、確かに。(声色をわざとかえて) …上松君。

上松 真つ黒。

聖人 何か悪い感じ。悪魔とか。

由加里 真つ暗な森の中。

隆司 洞窟。

聖人 真つ暗で冷たいような感じ。

T1 真つ暗で冷たいような、寒いような感じ。真つ暗というのは、目で感じるよね。でも、冷たい、寒いっていう感覚

もいいね。…島津さん。

島津 付け加えがありません。何もない感じ。

T1 いいね。「無」っていう感じ。谷川さん。

谷川 光がない。

T1 すばらしい。わくわくしてくるね。…

信 夜。

T1 ずばり「夜」。…小宮さん。

小宮 こうもり。

T1 いいね、ふくらんできたね。…由加里さん。

由加里 こうもりって言ったのでドラキュラ。

中 ドラキュラと言えば、おぼけ。

T1 おぼけ。俺を忘れるなっていう感じだね。…小宮君。

小宮 お化けと言えば、井戸。

T1 さっき、目で感じる事とか、ザワツて感じる事とか言ったよね。そして、井戸。すごいね。…今日の勉強は

「異世界」。どう？広がってきている？想像の世界。

百合子 夜のお墓。

谷川 こわい。

中 トンネル。

信 夜の学校。

T1 学校の怪談というのあったよね。…由加里さん。

由加里 夜の学校に付け加えて、夜の学校のトイレ。

T1 今度、臭いが出てきちゃったよ。想像の世界っていうのは、もしかしたら、現実の世界より…しっか、はつきり

言つてトイレって言われて臭いを感じる自信のある人。…先生も感じる自信

あるのだけれど。こんなに離れていても、感じられてしまうんだね。それが、想像の世界というものなんだね。

雪になって闇の世界を降りていくための態勢づくりがこれで整いました。始まって十分

余が経過していました。クラスのだけれども同じスタートラインに立つたためになくてはならない時間でした。

私たちがこれまでに、「つぼ」「穴」「夕日」「橋」「うんち」など、子どもたちを夢の世界、無意識世界へと誘うことばを発掘してきました。「雪」にもまたこれらの言葉と同じように別次元・別時空に連れ去る磁力があると考えています。

子どもたちは、イメージ空間の雪になって落ちていく。落ちていくそのあいだを語ってもらいたいのです。雪は落ちる。子どもたちに、落ちるイメージ運動が持続する限り、雪は地上に到達しません。いつまでも落ち続けます。雪が落ち続ける限り、意識空間は広がります。時間は伸びる。別次元が明瞭になってくるのです。別次元・別時空をどこまで子どもたちは広げうるのか、これが、私たちが確かめたい第一の課題です。(G・パシユラール「空と夢」法政大学出版局一三七頁)

「雪、おりてくる夢」とは宗左近のことばです。降る雪が人を夢の世界に連れ去ることを、即ち時空転換のイメージネーションを触発することを、詩人の直感が捉えたものでしょう。雪に宿る動性がイメージネーションをもたらすものと考えられます。

雪という軽やかな儂い存在には、さまざま

## 2

### 雪になる

私たちがこれまでに、「つぼ」「穴」「夕日」「橋」「うんち」など、子どもたちを夢の世界、無意識世界へと誘うことばを発掘してきました。「雪」にもまたこれらの言葉と同じように別次元・別時空に連れ去る磁力があると考えています。

子どもたちは、イメージ空間の雪になって落ちていく。落ちていくそのあいだを語ってもらいたいのです。雪は落ちる。子どもたちに、落ちるイメージ運動が持続する限り、雪は地上に到達しません。いつまでも落ち続けます。雪が落ち続ける限り、意識空間は広がります。時間は伸びる。別次元が明瞭になってくるのです。別次元・別時空をどこまで子どもたちは広げうるのか、これが、私たちが確かめたい第一の課題です。(G・パシユラール「空と夢」法政大学出版局一三七頁)

「雪、おりてくる夢」とは宗左近のことばです。降る雪が人を夢の世界に連れ去ることを、即ち時空転換のイメージネーションを触発することを、詩人の直感が捉えたものでしょう。雪に宿る動性がイメージネーションをもたらすものと考えられます。

雪という軽やかな儂い存在には、さまざま

な動性の宿っていることが認められます。浮遊感、加速度や旋回感覚、風を切る皮膚感覚、冷たさの感覚も。光の視覚、音の聴覚、臭いの嗅覚や触覚で感じる動性。これらが子どもたちにどう作用しているのか確かめたいのです。さらに、視界の広がり、視点の意識、時間経過の意識なども確かめなければならぬことです。子どもたちは、雪となったとき、そのイメージネーションの発動をどう実感し、体感しているのか確かめたいのです。これが第二の課題です。

T1 みんながこんなに想像力が豊かだと言うことが分かったので、想像の世界で遊びます。みんなが「闇の世界」が大好きだと分かったから。（「えーっ」という子どもたちの反応）「闇の世界」に入りましょう。目を閉じて。

「闇の世界」から、あなたたちは、雪になつて生まれてください。いいですか。あなたたちは雪です。雪です。雪です。暗闇の世界の中から雪になつて生まれました。雪になつてどんな感じですか。思い浮かんだこと、思いついたこと、ひらめいたこと、どうぞ話してください。…

百合子 冷たい。  
聖人 暗い中にポトンと白いものが…

T1 その白いものがどんな感じなの。浮いているの？

信也 下に落下していく。

百合子 真つ暗な中にひとりだけ自分だけポトンと光っていて、ちよつとおかしい感じ。

T1 今みんな「闇」の世界にいるのに光を感じたんだね。それから、冷たさも感じたのね。もうかなりみんな本物の雪になつている。

中 夜の空にひとつだけ星みたいな感じ。

T1 すてきな雪だね。…あれは何だろう。

星かな。いや、雪だ。中君の雪は、今どれぐらいの場所にいるんですか。…星ということは空ですか。

中 下に落ちかけている。

T1 おおつ、ちよつと先生の期待が裏切られた。星っていうから、空の高いところなるのかと思つたら、もうかなり地上に落下しかけています。「のぶや雪」も、もうどんどん落ちている。気が早いですね。もつとのんびりした雪はないの。

綾乃 現実の世界では、すぐにポトンと落ちていくんだけど、暗闇の中で何かふわふわした感じの雪がゆつくり、まっすぐ落ちるんじゃないかと、ゆらゆらしながら…

T1 すばらしい。…いいよね、中には、

ひゅーって落ちる雪があつてもいいよね、それはそれで男っぽい雪だよ。

…どちらかというところ、「のぶや雪」や「なか雪」は、あんたら今夢の世界にいるだろう。想像の世界だろうが。でも、ちよつと現実にこだわつてはしないかとね。だれもそんなこと言つてないけれどね。そういう感じだよ。

「しまづ雪」

島津 闇の世界で何もない感じだから、終わりが無い。

T1 すばらしい。どこまでもどこまでも、どこまでもどこまでも、どこまでもどこまでも落ちる。奈落の底。…それでは「みなみだ雪」

南田 木の下の下に落ちていて、闇が大きい。

T1 木の下の下に落ちてはいるんだけど、その雪が感じているのは大きな闇。大きな闇を感じている。本当に闇の世界を満喫しているのね。ほかに、まだ言つてない人遠慮しないで。

由加里 ふつう雪は白だけれど虹色の雪で、それで、幸せを運ぶみたいに、永遠に飛び続ける。

T1 ありがとう、由加里さん。雪だからって白って決めてた人いる？正直に手を挙げてくれる。恥ずかしいけど、先生は、雪は白であたりまえみたいに思っていました。でも、由加里さんに違ってたと言われました。：現実の雪は白だけど、虹色の雪だって。それも幸せを運んでくる。なるほどね。

谷川 闇が大きくて、雪が小さいから、雪が下の方に届く前に闇にとけ込んで消えてしまう。

T1 あまりにも闇が大きいため、闇に溶け込んで自分の身体は消えてしまう。雪だもんね。雪を知り尽くしてるよね、この人は。

百合子 闇の世界に落ちたとたん、何か闇は暗い感じだから、白い雪がどんどん紫になって悪化していく。

T1 雪がどんどん悪化してしまう。紫の世界って、何か悪につながる感じがする。

留奈 雪が自分だけ闇の世界に溶け込んで、暗いような悲しいような。

T1 今、気持ち：悲しいっていう感情が出てきたのは初めてだよ。すばらしい。

綾乃 自分だけ暗闇の中にいて、静かで冷たい感じ。

T1 音のこと初めて出てきたよね。

まだ生まれてないんだ。まだ雪の赤ちゃんに、まだね。

森 闇の中で地面に落ちて死んでしまった。（子どもたちに「残酷だ」という反応）

T1 初めてです。今までの雪は、みんなまだ命があったのよ。死んだ雪はひとつもなかった。闇の中で地面に落ちて死んでしまった。初めてだね。

吉岡 周りが真っ暗で静かだから、自分もなんだか悲しくなって、自分が雪なのか何なのか分からない。

T1 私は誰？自分は何なのか。でも、それまでは、悲しくなる前は、「よしおか雪」は雪だった。今は何なのか分からなくなった。深いね。

大岡 闇の中で自分ひとりで、みんながいなからさびしい。

T1 ここで次に進む前に、ちょっとごめんね。：こんなにたくさん雪が登場してきたんだけど、雪になったときに、みんな孤独なんだって。みんなも感じない？はい、隆司君どうぞ。

隆司 自分で自分は雪になったんだろうって。

T1 自問自答ね。なんで自分は雪に生まれきたんだろう。もしその答えが見つ

かったら言うてね。

で、孤独を感じている人が多いんだよね。雪ってそうなの？色々な雪があったけど、周りを見てね、上でもいいし下でもいいし。いま、自分のことばかりで精一杯で、自分の世界に目が向いていたんだけど、ちょっと周りを見て感じると思うのね。

谷川 さっき闇が大きくから溶け込んでしまってた言っただけだけど、それが、どんどんやっていたら雪は白だから、闇に溶け込むと灰色になってきて、それからまた白に戻るの、どんどん明るくなっていく。

T1 最初はたった一粒の雪だから消えてしまいかも知れないけれど、どんどん灰色で終わるんじゃないかって、今度それがまた白くなっていく。明るくなっていく。：じゃあ、闇から出発したんだけど、闇じゃなくて明るい方向に向かっていることが出来た。想像の世界ってすごいね。

百合子 私も、谷川さんと似てるんだけど、私はさっき雪が紫になって悪化してしまってたけれど、そこからどんどんいろんな雪が降ってきて、闇の世界を白で覆い尽くして、色々な木の芽を出して普通の山にしてしまう。

T1 今、普通の山って言ったんだけれど、ちよつと目をつぶって。東京の子と広島の子と想像の世界が違うかも知れない。普通の山って、思い浮かべてごらん。もう闇の世界じゃなくなつて、普通の山。小林先生は今、みんなの目の中にどんな色が広がっているのかなつて、きつとすてきななんだろうなつて思っています。

もう三十分も想像の世界で遊んだけれど、みんなに教えてもらうことが多くてびっくりしました。

夢の中で泳いでいるとき、人は川の水の冷たさを肌で感じ、抵抗する水の流れを体感として感じ取っています。夢の中で自転車に乗っていて、よろよろと転びそうになればそのよろめきを体感として感じています。触れた相手の掌の冷たさに、思わず自分の手を引つ込めるのです。このように夢は体感とともにあるものです。(本誌15号上原輝男「子どもと夢―夢は体感とともに在り―」)ところが、雪になつた子どもたちから、この種の体感が語られることがありませんでした。ふわふわ、ゆらゆらが出てからもその方向に子どもたちの感覚が振られることはありませんでした。わずかに冷たさに触れる程度でした。ここで注目しなければならぬのは、

闇の深さ、大きさと向き合っている子どもたちの実態です。闇の中で、「何も感じないから、終わりがない」「闇が大きい」「雪は闇に溶け込んで消えてしまう」「悪化してしまう」「暗いような悲しいような」「自分が雪なのか何なのか分からない」と、雪という自分の存在すら危うく感じているようです。それ故、闇からの脱出を考えて、雪が闇を明るくしたり、普通の山にしたりという話になるのでしようか。夜の闇こそ自由にイメージが飛翔する空間、情動の噴出する空間であつたはずですが。しかし、授業者が指摘していたように、子どもたちは闇の中で孤独を思うことが強く、「闇の中で自分ひとり、みんながいないからさびしい」という言葉からも、現実の世界から離陸できていないと判断せざるを得ません。闇の世界で遊ぶ余裕がない実態がうかがえます。ここに現代の子どもたちが抱えるさまざまな心の問題、例えば不登校やひきこもり発生の根原を認めてよいのだと思います。

闇が子どもたちのイメージ世界をリードしている例がなかったわけではありません。虹色の雪が、幸せを運んで永遠に飛び続けると語った事例にイメージネーションの発動を感じます。闇の世界でひとりを楽しむ姿を認めることができます。私たちは、ここに子どもたちの先験的な生きる力を認めることができ

るのです。やはり子どもたちは闇の世界で遊ぶことの出来る存在なのだ確認できたのです。

T2 さつきこれを(回転式黒板上の「現実の世界」と「想像の世界」)パツとひっくり返しました。なぜひっくり返したかという、今日は現実を言わないでもらいたい。今は、現実もちよつと入っていたような気がするの。どこが現実だつたと思う?

木原 死んだとか、白くて冷たいとか。

T2 何で死んだのかと言ったら、地面に落ちて死んだ。地面というのは、地上のことですね。みんなは闇の世界なんだから、すごく上のほうなんです。分かりますか。上のほうなんです。ですから地上が見えてきてしまうと、現実になっちゃうのね。上からみんなは空中に舞い降りてくるわけですね。その感覚をもうひと押ししてもらいたいな。

例えばここ(板書)を見て、ふわふわ、ゆらゆらつていうのはどうかな。みんなが同じじゃないよね。違う落ち方をしている人もいるよね。このところ、**「闇に落ちてる」**と言っています。「周りが真っ暗で静かだから悲

しくなる」この気持ちなんか現実でないよね。

みんなのなかにね、ふわふわ、ひらひらとね、上を見ている人もいたよね。

「真っ暗な中に、ぼつんとひとりだけ光っていて」というのは、きつと自分自身が見えてるんだね。その自分の目はどこにあるのかなって、そのところを話してもらえるといいね。みんなが想像している想像の世界が、何が見えているのかなと、何が聞こえているのか、なにがさわっているのか、そのところをもうひと押し。現実でないのだから、想像なんだから。

みんな言ってくれたよ。異世界だって。異世界になってるかな。(回転式黒板を示して) ちよつと現実ほくない。夢の世界なんだから、夢を語ってくればよいのです。雪になって、ふわーって、僕の雪はこんな感じ、こんなものがみえてきたよ、僕はこんな感じというのを聞きたいな。そしたら次に行きましょう。

さつきみたいに、私、ふわふわゆらゆらなんだって。この人、ゆらゆらふわふわ、きつと優しい風みたいに空中を漂っているのだと思います。見えますか、自分だけ落ちてると言っ

てるけど、お友達の雪たちはどうなっているの。今日はこのクラス三十二人。空中をひらひらさまよっている時に、感じたことを語ってほしい。がんばれ。

仕切り直しです。夢の世界、想像の世界に戻って体感を語らなければならないと、構えの修正が求められました。

また、語ろうとするその視点、視線の位置を考えるようにとも注文が出されました。子どもたちは先験的なイメージ運動を捉えることができたのでしょうか。

その後の子どもたちからどのような発言があったのか、ここからは列挙することとします。

中 落ちていくときに、どこへ行くのかなと話をしている。

谷川 私は、色々な雪が、ひとつひとつ色が違って、ぶつかり合って、青と白がぶつかり合って色が変わっていく。

桑山 ほかの雪とどこへ落ちていくんだろうと、話し合っている。

島津 これからどこへ行くんだろうと、楽しいところかな。

百合子 私は、雪に手とか足とかがあって、空で運動会をしている。

由加里 雪が地上に落ちたら、水になるので、水になったら、雪と違うことができるので、何したいと話している。

小山田 悲しくなって、不安だったけど、地面に落ちたら友だちがいて楽しくなった。

大岡 落ちていったら、夕焼けが出て、だんだん明るくなっていった。

中 太陽が出てきたら溶けてしまうので、太陽が出てこないようにどンドン雪を降らせて曇らせてしまう。

江本 どうせ落ちたら溶けてしまうんだから、太陽が出てもしよだなと思つて。

百合子 ずつとひとりだからつまらないなと思つていて、雲に引き返して、みんな仲間をよんで、遊びながら途中で止まって、雪は水分含んでいるから、虹が作れるかなと虹になった。

T2 ちよつといい。絵に描いてみたのね。

(写真2) 地上はこの辺ぐらいね。そしたらあなたはこの辺ぐらいにひとりいる。すごいなと思つたのは、もう一度、上にも想像が伸びてるし、今度はどこに広がってる、想像が。どうですか、こちらにもこちらにも広がってるんですけど、この広がりに広がっているのは、はてがある？おしまいがあある？そ

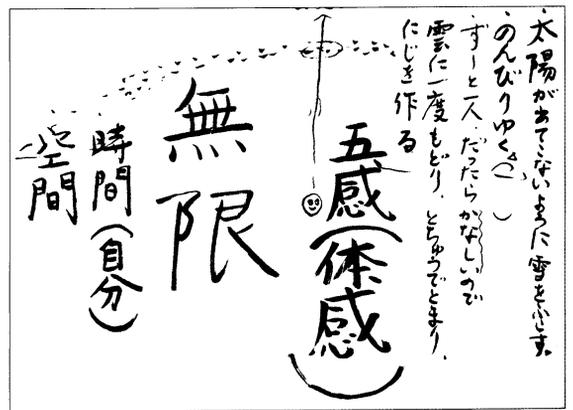


写真2 板書・虹が架った

ういうのなんて言うの。おしまいがない。

南田 無限。

T2 無限に広がっている。だからみんながやってくれたのは、本当にそうなんだけれども、想像の世界というのは縦にも横にも無限に広がっていく。これも空間だけでも無限に広がっていく。時間だって無限に広がっていく。それは、この授業の最初にみんなの中から出た。どこにあるかというところを見て。想像の世界というのは、異世界、空想、夢、思った、想像、現実じやな

い世界、未来。すごいね。つまり、過去、未来というのはこれ何なの。

桑山 時間。

中 自分の世界。

T2 そうだね。自分自身の時間の世界。

時間の世界を広げられるし、百合子さんが言ってくれた空間を広げられることもできるし。虹まで架けてしまいましたが。今日の勉強はこの勉強がしたかったです。わけ分からないと思ったかも知れないけれど、現実の世界はそんなに広がらない。だってそうでしょ、この教室なんて、広がらない。自分の頭の中の世界、自分の世界は無限に広がっていくんだよ。そして、それがあから、今、ここに現実を生きていることができる。だって自分だけの。いいですか、イメージーションの世界、想像の世界というのはそういう風に広げることができるんだよということ。これは先生が説明したんじゃない、みんなから出てきたことばをまとめただけなんだよ。時間にも空間にも広げることができます。で、それを使ってもうひとつ想像の世界を広げてほしいと思います。

「雪が地上に落ちたら、水になるので」

「太陽が出てきたら溶けてしまうので」などのことばに代表されるように、子どもたちの語りをリードしているのは、知識であると言えます。現実世界にまだスタンスがあると言っている良いのでしょうか。私たちは先験的なイメージ運動こそが、私たちの、大人であれ子どもであれ現実生活を導く人間活動の源泉でありエネルギーであると考えています。そのような観点から言うと、百合子さんの雪が虹になったという転換にイメージ運動の発生を認めることができるように思います。それにしても、イメージ世界の体感を語っているのに「雪は水分を含んでいるから」と言わざるを得ないところに、知識優先の説明調から抜け出せない現状を認めざるを得ません。だからといって、私たちはこのような現状に悲観しなくても良いのだと思います。こうして子どもたちに命の発露としてのイメージ運動の営みのあることを確かめることができたのですから、この授業の目的のひとつは果たせたと考えましょう。私たちにできる、次なる手だてを考えていかなければなりません。

さらに、百合子さんの語りは、闇は光を呼ぶのではないか、そんなことを思わせませう。また、私たちは、百合子さんに語りの姿勢、構えを認めることができます。闇の深さ、その怖さを言っている間は語りが始まりません。雪が虹に転換することによって初めて世

界が確定し、同時に語るための位置が定まっていることに気づきます。

さて、闇の世界、想像の世界は無限の広がりを持つているという新しく発見された地平に立って、子どもたちは次なる課題に挑みました。

### 3

## 胎児になる

夢の世界という無限の広がりのおかげでただ遊べるかが問われています。この授業の構想を練る中で、雪になり、一転して胎児になるという提案があったとき、その思いもしなかつた飛躍に驚きましたが、しかしそれが夢の世界の自由だと納得したのです。つまり、なによりこのような不時突発性としてイメージーションはあるのですし、空間としての転換も問われているからです。雪になるは、無限定な空間の設定であり、胎児になるはいわば壺の中に位置をとるのに似て、位置が定まった場合に子どもたちがどう反応するかを見ることになるからです。さらにこんなことも考えています。それは人間のイメージ運動の基調が「闇に帰ること」すなわち「母胎回帰」としてあるのではないかと考えているのです。イメージ運動の基調音は、暗く混

沌としたところに発するものと考えられるのです。感覚だけの存在である生まれる前の自分、胎児となって語ってほしいのです。

T1 長い間雪になってくれてありがとう。

もう人間に戻りましょう。人間に戻るのだけれど、生まれる前の、お腹にいる赤ちゃん、胎児になるの。生まれる前に、お母さんのお腹にいる生命体のことを胎児というのね。その胎児になって、闇の中のお腹にいるときのことを想像して文章にしましょう。今日は自由なんだから、ことばでもよいし文でも良いし、自分の書き方で。

次に示したものは、五分ほどの時間で子どもたちの書いた胎児の思い、語りです。

○人間に戻ったあなたが、胎児となつて闇の中にいる時を想像して書きましょう

1  
なぜ、自分はこんなところにいるのか  
と思っている。

お母さんはどこにいるの。

2  
暗い中のどこか分からないところにう  
いている。(空中)

どこからかテンポよく、音が聞こえてくる。

小さなかすかに、

「トン・トン・トン・トン」

闇に何があるか分からないけれど、何かにつながっている。

3  
私は、おなかの中で、何も考えず、真つ暗なかで、ひとりであらうしている。

せまい。

4  
ここは、どういう世界なんだろう？

という気持ちは何もなく、真つ暗な気持ち。

5  
ここはどこ。僕は誰。

僕は何のためにここにいるの。

何も見えない。さむい。こわいと感じる以外なにも感じない。

何も思わない。

6  
今、生きているのかさえも、分からない。

胎児になったぼくは、暗くてせまい場所にぽつんとしている。しゃべることも立つこともできなくて、だれかを呼ぶことも、さがすこともできずに、た

だ、一人でそこにいる。そしてだれかが来るのをじっと待っています。

7

ここは、どこだろう。

どんな世界があるのだろう。

暗いところでこわいな。だれかいのないかな。

はやくここからでて、新しい世界を見たいな。

8

闇の中に、ぼくがいて、そして最初は何もなくてさびしかったけど、そこにいると、ほかの人とかとあつたりして、さびしかったのが、だんだん楽しい気持ちになってきました。

9

私は腹の中にいるとき、きつと、いつこのまっくらな中から外に出られるのかなと、思っていると思います。

10

わたしは、おなかに入る時に、ここはどんな世界だろうかなあ。今は小さくて暗いんだけど大きくなったら明るい太陽のように光っているのだろう。

11

いつ生まれてこれるんだろう？  
だれがいるんだろう？

早くやだからぬけだして、新しい世界も見てみたい。

12

ぼくは、今、何も分からない。どこにいるかもわからない。いったい何をしているか、ここはどこかわからない。

やつと気づいた場所は、お母さんのおなかの中。

やつと何をしているかも分かった。お母さんから栄養をもらっている。

13

泣きほうだい。(こわくて)

暗くて、お父さんとお母さんが見えない。

どこからか、ゴーゴーとうるさい音が聞こえる。

となりにも前にも後ろにも、他の赤ちゃんといる。

小悪魔が、赤ちゃんの世話をしている。

闇の中に鳴き声がひびきわたっている。

生まれるたい。暗くてこわくて目をつぶって。

もしかして、ここが病院かな。

14

この暗いところはどこだろう。自分って何だろう。おれってだれ？どうして

ここにいるのだろう。

15

今、ぼくはたった一人で闇の中にいます。そして、

こわい助けて。

親は、どこにいるのかな。

なんで、自分だけ、こんなところにいるんだろう。

どこにもぶつからないのかな。

暗いな。争かだな。

17

いつもいつもつまらないから、しかも、まっくらだし、きゆうくつだから、いろんなところをけて、へやを広げて、もつとのびのびして、毎日を

18

一人で暗くてさみしくて、それに赤ちゃんと、歩くことも、立つこともできない。だけど、だんだんはうことはできるようになってきた。だからはいまわった。そしてかべにぶつかつた。前生まにいのに。

19

真つ暗の中において、不安な感じ。  
生まれたら、どんな世界なんだろう。  
(楽しいところだったらいいな。)

20

周りが真つ暗な世界なので、自分でさえも見えずに、自分は犬なのか、ねこのか、人間なのかも分からずにじつとしてゐる。

21

空中にういている。周りにも、同じような子がいて「どこに行くのかな。」  
「ここはどこかな。」とか話をしている。

22

生まれた後、どんなことが私を待っているのかな。楽しいことだといいな、と思う。

23

うきうき、ワクワクした気分で闇を明るいの所に替えてしまう。

24

ここはどこまでも続く闇の中。音もなく、周りにだれもない。しかし、なぜか、その闇はあたたかくやわらかな感じ。  
だいてくれるようにやさしい感じ。

25

闇の中にいるのは、暗くてこわいの  
で、「早く出して」と言っている。  
生まれるのがたのしみ。  
早く空気をおなかいっぱいにすいたい。  
光の中へ行きたい。

さみしい。

友だちがほしい。

好きなことをしたい。

26

前の場所は暗い闇の中から生まれてちじょうにいつて、成長し、大きくなつていき、最後、光の中になるから、人間は光の中にいるということを想像しました。

27

自分のことやほかのことが何も分からない。だからとてもさみしい。悲しい。たぶん、自分のことや、ほかのこととが分かったら、とっても幸せな気分になれると思う。

28

**せまい。**

みんなはどのような人なのだろうか。母さんはどんな人だろう。僕が生まれたら、どんな人と会えるのだろうか、とぼくは、思うはずです。また、このやみからぬけ出して、明るい世界に行ってみたいと思う。

30

きゆうくつで、すぐせまい。動きにくい。おなかの中だから、だれもいなし遊ぶものもないから、つまらな

い。

ここはどうして、こんなにせまいんだろう。

暗いなあ、早く出て行きたい。

思いつき、動き回りたい。

まっ暗、どうしてこんな所に入りこんだんだろう。

自分は、今、何をしてるんだろう。

やわらかい、あつたかい、でもなんだかすずしいような、さむいような。

いつまで、ここは、どんなところなんだろう。

いつまで（ここに）いれば、いいのだろう。

32

なぜ、自分はこの世界に生まれるのだろうか。何をするために、一つの命をさずかったのだろうか。ぼくは、これからどう生きていけばいいのだろうか。そして、闇の中で一つの命をさずかつたぼくは、生きるという無限の時間の中で何万人という人を救いたい。

胎児になって語るといふ設定に、子どもたちは以上のように応えてくれました。まず気づくことは、自己を語る事例が多いことだと言えます。おおよそ10例がこれにあたりま

す。5・14・32に代表されるように、「僕はだれ」「どうしてここにいるの」「何のために」という問を発しているものです。胎児という設定が自己の来歴意識を刺激している、いわば鏡の働きをしていることだと考えます。6年生という成長の段階から見ても、自己意識あるいは自己の存在というところに意識が向くのは素直な反応だと思われまます。ただ、自己という個体に埋没したままでは、胎内という夢の時空に身を置くことにはならないのです。

事例の数から言う闇の暗さの中にいることに意識の向いている方が多いのです。14と15例を数えることができます。先程の「雪になる」の場合と同じように暗くて寂しい、怖い助けて、明るいとこに行きたい等に代表されるものです。5分足らずの短時間のことでしたから、もう少し時間をおけば違う思いへと変化するのではないかと思わせる例がないわけではありません。

授業目標との関係で注目したいのが31で、「暗いなあ、早く出て行きたい。」と言っていたのに、いつしか「やわらかい、あったかい、でもなんだかすずしいような、さむいような。」と、体感を語っていることです。この点で23には特に注目しなければなりません。「ここは、どこまでもつづく闇の中。音もなく、周りにだれもない。」「なぜか、

その闇はあたたかやわらかな感じ。」「だいてくれるようなやさしい感じ」とあって、これも体感を語っている例と言えましよう。体感として語ることができたから、闇の深さを言っても出て行きたいとは思わないのでしよう。胎内を温かい居心地の良いところとしているその体感は、懐かしいという情動を伴っているのではないかと考えられます。この子に於いては胎内という設定は、まさに自己から解放される時空として成立していたのではないかと考えられるのです。この二つの事例はイメージネーションの発動によるものと考えられます。

空中にいて、浮いているとした例が2と21にあります。21は周りにも同じような子がいて、と複数の胎児の存在を語っています。複数の胎児の存在は13にもあって、特に、——となりにも前にも後ろにも、他の赤ちゃんがいる。／小悪魔が、赤ちゃんの世話をしている。／闇の中に鳴き声がひびきわたっている。／生まれたい。暗くてこわくて目をつぶって。／もしかして、ここが病院かな。——と続く展開もイメージネーションの発動によるものでないかと思われまます。

子どもたちは雪になることによって、闇の世界、夢の空間の無限の広がりを確認することができました。それがあったからこそ、多くの子どもたちが胎児へと転換できたのだと

かんがえられます。子どもたちの反応からは怖いと言いなながらも闇に引かれてしまう様子がうかがえました。イメージ世界の誘引性に身を任すこと、上原先生は時空の放埒現象（「日本人の心をほどこかぶき十話」オリジン社）と名付けましたが、子どもたちは真夏の日の光の中で、雪になり胎児になってその実例を見せてくれました。イメージネーションの授業の可能性とその必要性を確認できたのです。

（東京・元聖徳学園小学校教諭）

#### 公開研究授業

平成十七年八月二十三日 火曜日

広島県深安郡神辺町立湯田小学校

第六学年一組（川崎年子学級）

男子 十七名 女子十七名 計三十四名

#### 授業者

T1 小林 照子

（東京・八王子第十小教諭）

T2 中川 節子

（東京・町田小川小教諭）

（子どもたちの氏名は仮名で示した。）